

平成22年度消費生活eモニター第2回アンケート調査

「くらしの環境対策・電気エネルギー対策関連設備について」

目 次

第1章 調査の概要	・・・P2
1 調査目的	
2 調査対象	
3 調査方法	
4 調査期間	
5 回答者の属性	
第2章 調査結果	・・・P3
第3章 まとめ	・・・P13

【以下のホームページも是非ご覧下さい。】

かながわの消費生活

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100548/>

第1章 調査の概要

1 調査目的

かながわ中央消費生活センターで実施する生活科学研究ネットワーク事業の一環として調査を実施しました。

2 調査方法

インターネットによるアンケート調査

3 調査期間

平成22年10月15日(金)から10月25日(月)まで

上記期間に163名のモニターの回答があった。また残り37名のモニターを対象として11月5日(金)から11月8日(月)に追加調査を実施し、8名からの回答があった。以下、両方の期間の回答を合わせて集計する。

4 調査対象

消費生活eモニター：200名 有効回答者：171名

5 回答者の属性

性別	男性 82名	女性 89名
年齢	20歳代	15名(男性：3名 女性：12名)
	30歳代	48名(男性：16名 女性：32名)
	40歳代	37名(男性：15名 女性：22名)
	50歳代	37名(男性：15名 女性：22名)
	60歳代	37名(男性：26名 女性：11名)
	70歳以上	7名(男性：7名 女性：0名)

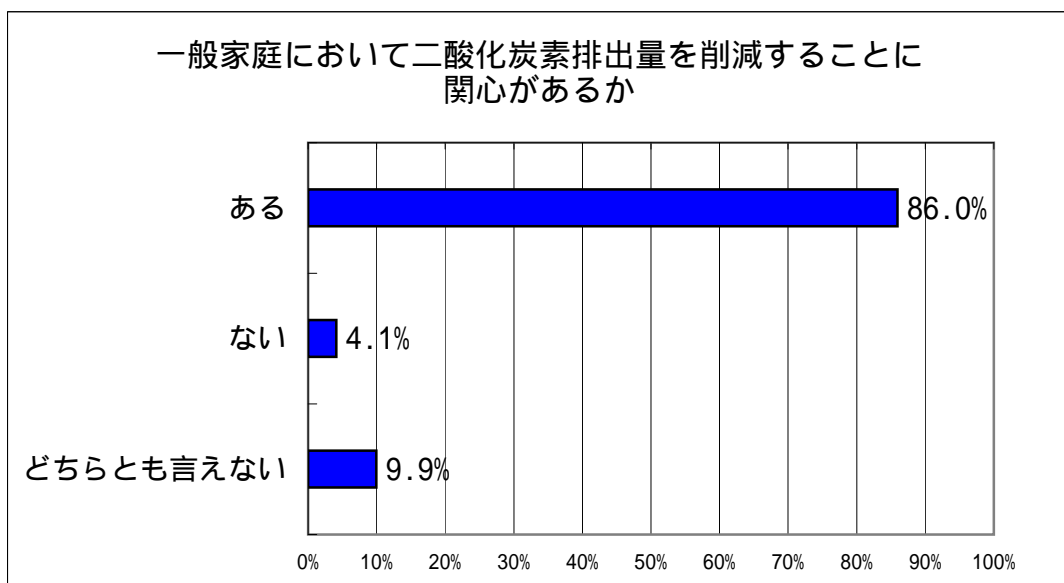
第2章 調査結果

- ・設問はQ3から開始しています。（Q1・Q2はモニターの属性を確認する項目のため）
- ・複数回答のある設問では、%の和は100を超える場合があります。

1 省エネルギーについて

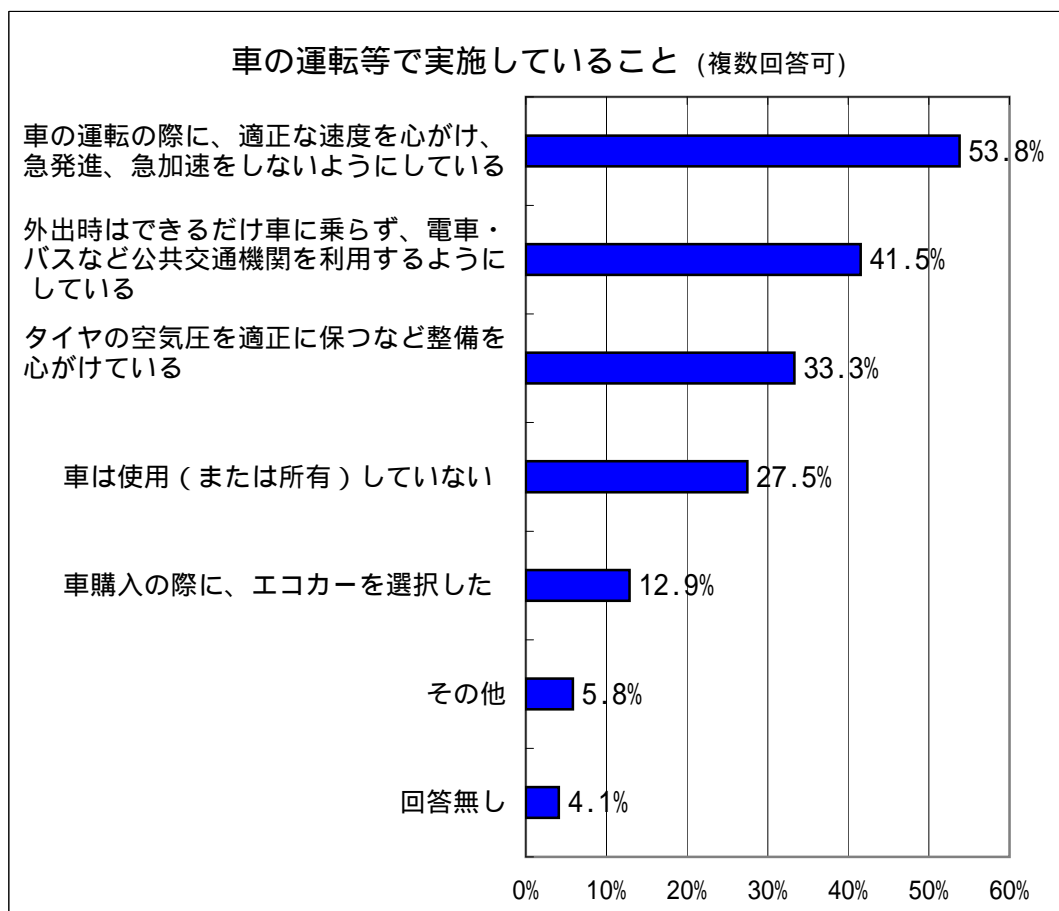
二酸化炭素の削減への関心について

- Q3 一般家庭において二酸化炭素排出量を削減することに関心があるかをたずねたところ、9割弱の方が「興味がある」と回答しています。
その一方で「ない」「どちらとも言えない」という回答も一定数ありました。



二酸化炭素の削減のため実施していること

- Q4 車の使用等で、二酸化炭素排出量削減のため実施していることがあるかをたずねたところ（複数回答可）、多くの回答者が車の運転・整備について「車の運転の際に、適正な速度を心がけ、急発進、急加速をしないようにしている」「タイヤの空気圧を適正に保つなど整備を心がけている」などを実施しているとしたほか、「外出時はできるだけ車に乗らず、電車・バスなど公共交通機関を利用するようにしている」「車は使用（または所有）していない」と車に依存しない生活を表す回答も多く得られました。
- なお、「その他」の意見としては、「アイドリングを少なくする」「荷物を少なくする」が複数挙げられました。



電気の省エネルギー対策のため、実施していること

Q5

電気の省エネルギー対策のため、実施していることを尋ねたところ（複数回答可）、「エアコンをなるべく使用しない」「（電気冷蔵庫の）無駄な開閉はしない」「電気ポットは使用（所有）していない」「電気はこまめに消す」等電気の使用そのものを控えるなどの、様々な方法で省エネルギーが実施されていることがわかりました。

1．エアコン	回答率	回答数
エアコンをなるべく使用しない	63.7%	109
夏の冷房は、室温28℃を目安に温度調節をしている	56.1%	96
冬の暖房は、室温20℃を目安に温度調節をしている	35.1%	60
エアコンは設置していない	1.8%	3
その他	8.2%	14
回答無し	2.9%	5

2．電気冷蔵庫	回答率	回答数
無駄な開閉はしない	64.9%	111
熱い物はさましてから冷蔵庫に入れるようにしている	64.9%	111
ものを詰め込みすぎないようにしている	59.1%	101
設定温度は適切に（冷えすぎないように）調節している	50.3%	86
放熱のため壁から適切な間隔で（隙間をとって）設置している	38.0%	65
その他	5.8%	10
回答無し	2.9%	5

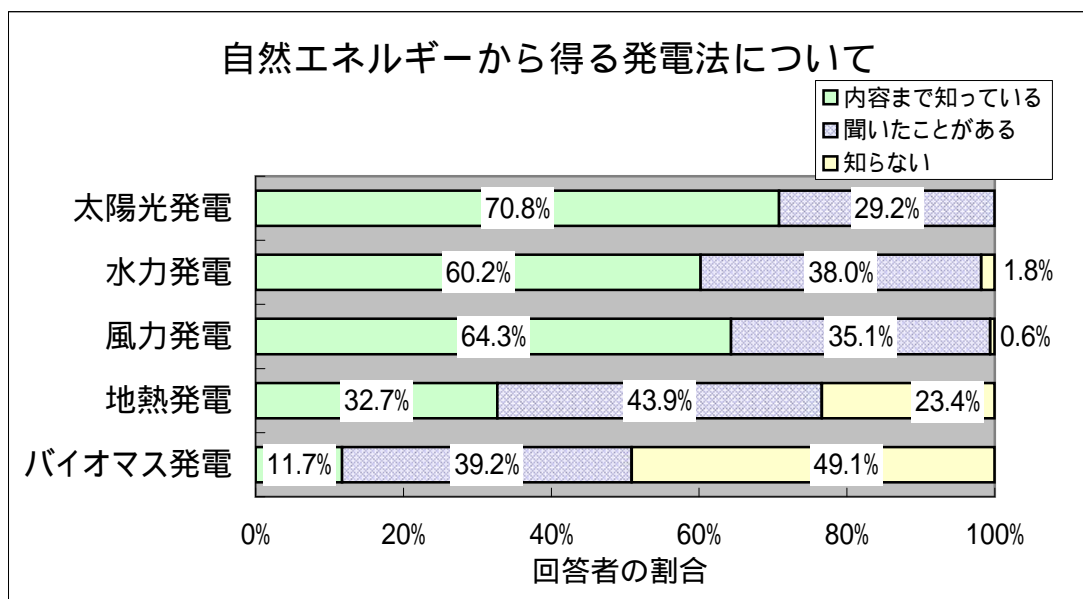
3．電気ポット	回答率	回答数
電気ポットは使用（所有）していない	58.5%	100
長時間使用しないときはプラグを抜いている	22.2%	38
保温機能のないものを使用したり、保温の時には電気を使わないものを選んでいる	12.9%	22
低目の温度で保温し、必要な時にその都度再沸騰させている	11.7%	20
その他	5.3%	9

4．温水洗浄便座	回答率	回答数
便座暖房の温度は低めにしている	50.3%	86
使用しないときはフタをしまっている	46.8%	80
洗浄水の温度は低めにしている	38.6%	66
温水洗浄便座は使用（所有）していない	35.7%	61
その他	8.8%	15
回答無し	1.2%	2

5．生活習慣	回答率	回答数
電気はこまめに消す	91.8%	157
冷暖房を付ける部屋を少なくする	69.0%	118
旬のものを買う	52.6%	90
近い産地の食品を買う	31.6%	54
その他	8.8%	15
回答無し	1.2%	2

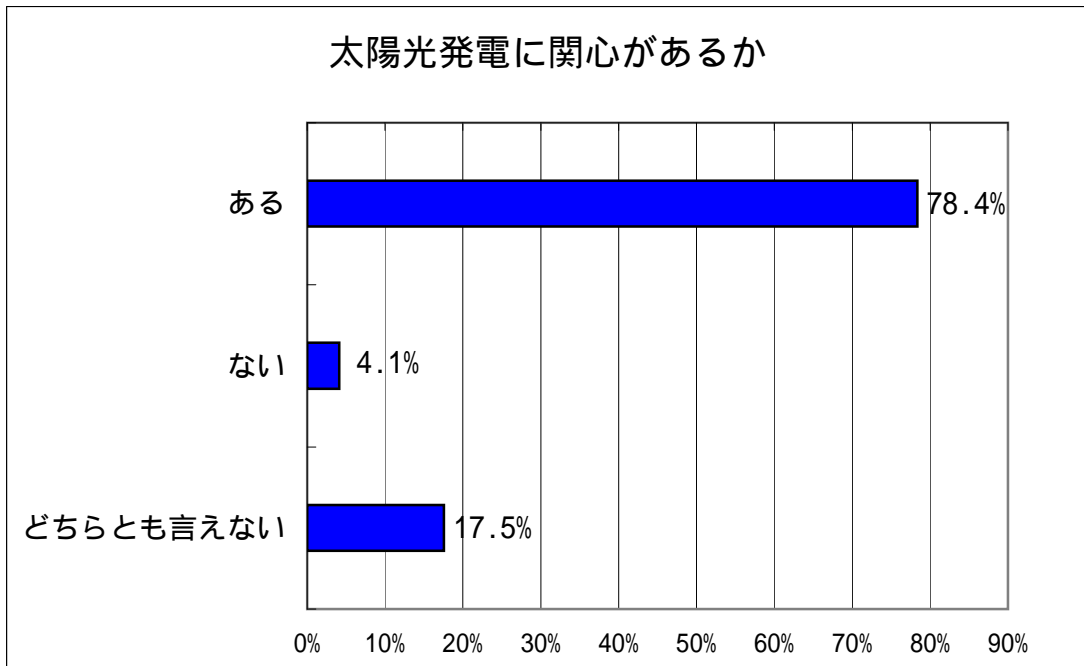
2 太陽光発電等の自然エネルギーによる発電法について 各自然エネルギーについて

Q6 電気を自然エネルギーから得る発電法についてたずねたところ、太陽光発電で全ての回答者、水力発電・風力発電でほぼ全ての回答が「内容まで知っている」または「聞いたことがある」であったのに対して、地熱発電・バイオマス発電では「知らない」という回答の割合が多くなりました。



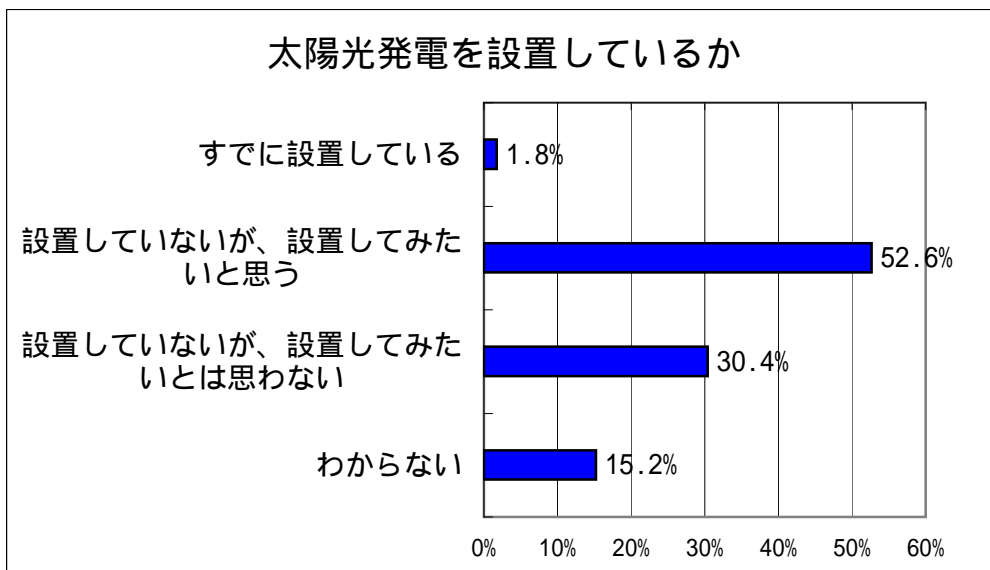
太陽光発電に関心あるか

Q7 太陽光発電に関心があるかをたずねたところ、「ある」が8割近くとなりました。一方で「ない」という回答も若干数得られました。



太陽光発電を設置しているか

Q8 太陽光発電についてたずねたところ、「すでに設置している」という回答者は3名にとどまったものの、「設置していないが、設置してみたいと思う」という回答は5割を超えました。その一方で、「設置していないが、設置してみたいとは思わない」「わからない」という回答も併せて4割以上ありました。



太陽光発電を設置した理由・経緯

- Q9 Q8で太陽光発電を「すでに設置している」と回答した3名の方に、「どのような理由で設置したか」をたずねたところ（複数回答可）、「余った電気は売ることができるから」「電気料金節約のため」など様々な理由が寄せられました。

どのような理由で設置したか（複数回答可）	回答数
余った電気は売ることができるから	3
電気料金節約のため	3
二酸化炭素削減などの環境を配慮して	2
補助金が出るため	2

- Q10 Q8で太陽光発電を「すでに設置している」と回答した3名の方に、どのような経緯で設置したかをたずねたところ、「家を新築・改築した時に」という回答者が2名、「太陽光発電装置販売店へ」という回答者が1名でした。

どのような経緯で設置したか	回答数
家を新築・改築した時に工業者をとおして	2
家を新築・改築時ではなく、太陽光発電装置販売店へ直接依頼した	1

太陽光発電に満足しているか

- Q11 Q8で太陽光発電を「すでに設置している」と回答した3名の方に、太陽光発電装置を設置して、満足しているかをたずねたところ、「満足」という回答者が2名、「わからない」という回答者が1名でした。

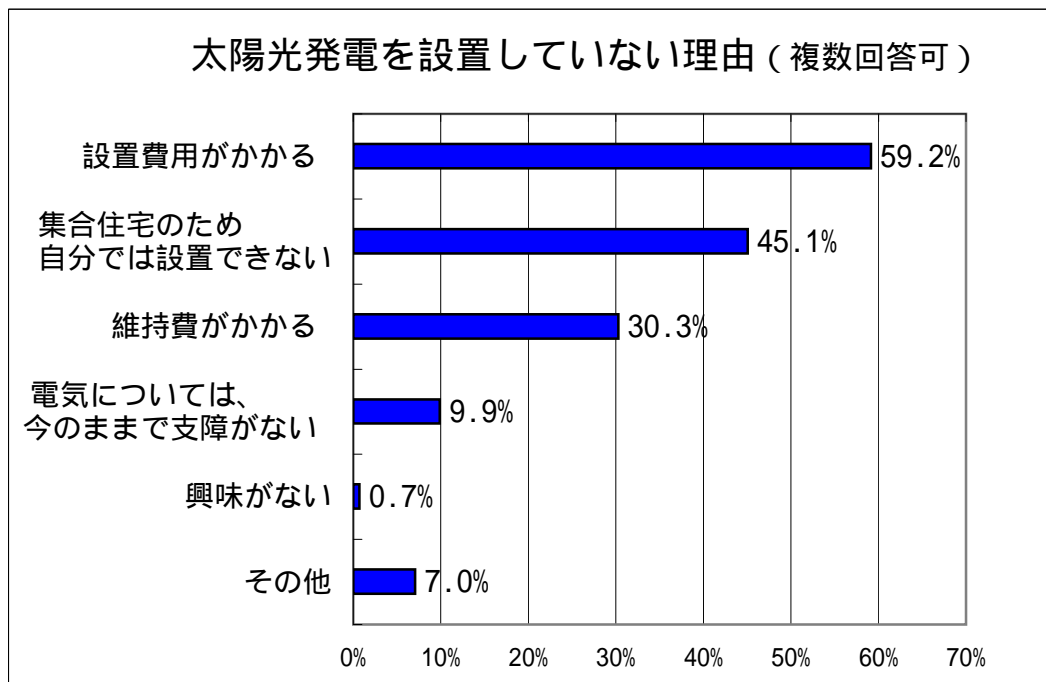
太陽光発電に満足しているか	回答数
満足している	2
不満	0
わからない	1

- Q12 （Q11で太陽光発電に「不満」と回答した方への質問：該当者無しにつき割愛）

太陽光発電装置を設置していない理由について

Q13 Q8で太陽光発電装置を「設置していない」と回答した142名の方に、設置していない理由をたずねたところ（複数回答可）、「設置費用がかかる」が最も多く、他にも「維持費がかかる」と、経費を理由とする回答が多数ありました。

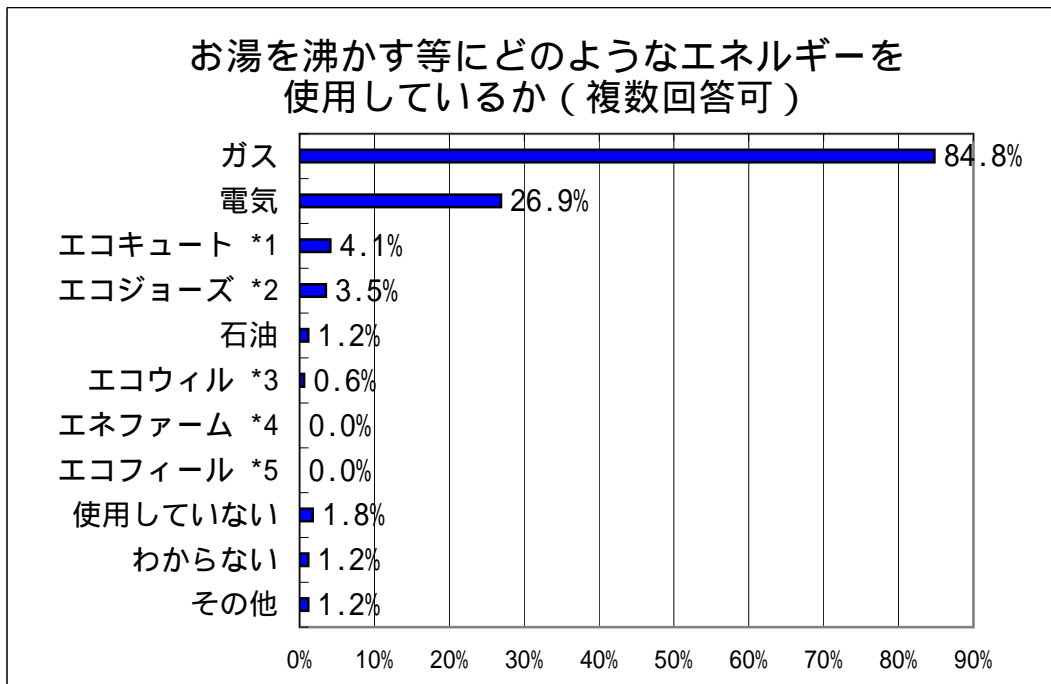
また、「集合住宅のため自分では設置できない」が多数、他にも「今のままで支障が無い」「興味が無い」という回答が少数寄せられました。



3 普段利用しているエネルギーについて
給湯器等について

Q14 お湯をわかす等にどのようなエネルギーを利用しているかを全回答者にたずねたところ、ガスという回答が8割以上、電気という回答が3割弱でした。

エコキュート等の新しいエネルギーを利用しているとする回答者は、エコキュートが7名、エコジョーズが6名、エコウィルが1名でした。(複数回答可)



*1 エコキュート：自然冷媒ヒートポンプ給湯器。ヒートポンプ技術を利用し空気の熱で湯を沸かすことができる電気給湯器。自然冷媒として二酸化炭素を利用する。

*2 エコジョーズ：ガス高効率給湯器。天然ガスを使った潜熱回収型ガス給湯暖房熱源機。家庭用ボイラー。

*3 エコウィル：ガスエンジン給湯器。ガスエンジンで発電を行い、その際に発生する排熱を給湯などに利用する。

*4 エネファーム：燃料電池コージェネレーションシステム機器。水素と酸素を反応させて発電するシステムで、発電時の排熱を給湯に利用する。

*5 エコフィール：石油高効率給湯器。石油を燃料とする潜熱回収型給湯器、排気とともに空気中に放出していた熱エネルギーを再利用する。

期待どおり光熱費を節約できたか

- Q15 Q14で挙げたエネルギーのうち新しいエネルギーについて、設置して、期待どおり光熱費を節約できたものがあるかをたずねたところ、エコキュートを「設置している」とQ14で回答した7名中4名、エコジョーズは6名中6名、エコウィルは1名中1名が「期待どおり節約できた」と回答しました。

	Q14で設置しているとした回答数	節約できたとする回答数
エコキュート	7	4
エコジョーズ	6	6
エコウィル	1	1

運転音が気になるか

- Q16 Q14で挙げたエネルギーのうち新しいエネルギーについて、設置して、湯沸時の運転音が気になるものがあるかを尋ねたところ、エコキュートを「設置している」とQ14で回答した7名中0名、エコジョーズは6名中0名、エコウィルは1名中1名が「運転音が気になる」と回答しました。

	Q14で設置しているとした回答数	運転音が気になるとする回答数
エコキュート	7	0
エコジョーズ	6	0
エコウィル	1	1

4 自由意見

自由意見を求めたところ、50名の方から様々な意見をいただきました。
太陽光発電や給湯器につき「設置費用が高い／費用対効果が疑問」という意見が最も多く、同時に「エネルギーについて効果や違いが不明」「興味はあるが製品について分からない」等、エネルギーや製品自体に対する疑問を示す意見も複数寄せられています。

また、「環境対策の仕組みづくりが必要」「公共・商業施設の電気に無駄がある」「家庭から削減することが大切」など、省エネルギーに対する多様な意見が寄せられました。

自由意見	回答数
設置費用が高い／費用対効果が疑問	13
エネルギーについて効果や違いが不明	6
家を建て替えるならエコ住宅導入したい／建て替えない限りは困難	5
集合住宅のため設置や検討が困難	4
環境対策の仕組みづくりが必要	3
公共・商業施設の電気に無駄がある	3
家庭から削減することが大切	2
興味はあるが製品について分からない	2
その他	12

5 その他

Q18 県消費生活課からの調査依頼につき割愛。

第3章 まとめ

二酸化炭素の削減と省エネルギーについて

171名の回答者のうち9割近くが「二酸化炭素削減に関心がある」と回答しており、実際に5割以上が「車の運転の際に、適正な速度を心がけ、急発進、急加速をしないようにしている」と回答するなど、車の運転の際や、エアコン等の生活用品を使用する際に、「適正な速度・温度等で使用すること」や「使用頻度を減らすこと」などの様々な方法で、各回答者が省エネルギーに取り組んでいることが読み取れます。

自然エネルギーについて

自然エネルギーについては、太陽光発電は全ての回答者、水力発電・風力発電はほぼ全ての回答者が「内容まで知っている」または「聞いたことがある」と回答したのに対して、新しいエネルギーである地熱発電・バイオマス発電では「知らない」という回答者が増えました。

そのうち太陽光発電についてたずねたところ、関心があるという回答者は8割近くである一方、「すでに設置している」という回答者は少数でした。「設置してみたいと思う」という回答者は全回答者の5割以上であり、設置していない理由としては「設置費用がかかる」「維持費がかかる」という回答が多く寄せられていることから、経費が設置にあたっての大きな課題として挙げられます。また「集合住宅のため自分では設置できない」という回答も多数寄せられています。

新しいエネルギーについて

現在お使いのエネルギーを尋ねたところ、従来のエネルギーであるガスを8割以上、電気を3割近くの回答者が使用している（複数回答）一方で、新しいエネルギーである「エコキュート」「エコジョーズ」「エコウィル」を使っているという回答者もそれぞれ少数ありました。

これらのエネルギーを利用して「期待どおり節約できた」という回答が、エコジョーズを設置しているとした回答者の全員、エコキュートに関しては5割近くから得られました。また「音が気になる」という回答は、これらのエネルギーを設置しているとした回答者のうち少数に留まりました。

調査を通じて

回答者への二酸化炭素削減への関心は高く、身近な方法で省エネルギーに取り組んでいる回答者が多い一方で、太陽光発電・エコキュートなどの機器を導

入しているという回答は少なく、「設置費用が高い／費用対効果が疑問」という回答が、設置していない理由についての設問及び自由意見でも多く寄せられました。

その一方で、太陽光発電を「設置していないが、設置してみたいと思う」という回答は5割以上あり、自由意見でも「エネルギーについて効果や違いが不明」「興味はあるが製品について分からない」とエネルギー・製品に対する疑問を示す回答が複数寄せられていることから、今後省エネルギー製品の普及にあたり、関連事業者や行政からの広報が重要であると考えられます。

他にも「環境対策の仕組みづくりが必要」「公共・商業施設の電気に無駄がある」「家庭から削減することが大切」など省エネルギーに対する多様な意見が寄せられており、回答者の関心の高さがうかがえます。